

第16回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録

I 日時

令和4年(2022年)7月13日(水) 10:00~11:45

II 場所

中山台小学校 1階 なかやまホール

III 次第

1 開会

2 委員紹介と座長・副座長の選任

3 議題

(1) 中山台地区教育環境適正化検討委員会のこれまでの取り組みについて

(2) 中山台小学校の開校について

(3) 今後の取り組みについて

①学校統合準備会について

②小中一貫教育の取り組みについて

4 閉会

IV 議事録

(事務局)

それでは、第16回中山台地区教育環境適正化検討委員会を開催させていただきます。

本日はご多忙中にも関わらず、会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、資料の確認をさせていただきます。

～配布資料確認～

また、本日は、会議終了後に中山台小学校の児童の様子や学校施設を見ていただく予定です。そのため、会議の時間としては、1時間以内を目途としたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

次に、開会にあたりまして、教育委員会管理部長よりごあいさつさせていただきます。

～事務局あいさつ～

それでは、ただいまからの進行を、座長をお願いいたします。

(座長)

これまでは中山五月台自治会の会長をしておりました。この6月からは中山台コミュニティの会長となりました。学校との関わりでは、子どもが3人とも中山桜台小学校の卒業生です。それ以降は関りがありませんでしたが、5年程前、大学の学会の仲間を連れて、不思議な布や繻を使ったり、3D プリントを使ったりして、放課後子ども教室をさせてい

ただいたことがあります。これからは、副座長の補佐を受けながら座長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは、私が会議の進行をさせていただきます。

「(1)中山台地区教育環境適正化検討委員会のこれまでの取り組みについて」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

中山台地区教育環境適正化検討委員会のこれまでの取り組みを説明します。

これまでの検討委員会の主な取り組みテーマですが、中山五月台幼稚園の閉園と閉園後の通園手段、山手台中学校区から中山五月台中学校の通学区域の弾力的運用、中山桜台小学校と中山五月台小学校の学校統合と大きく3つありました。

中山五月台幼稚園の閉園につきましては、市立幼稚園の適正規模化の取り組みの結果、令和2年度末をもって閉園しました。閉園に際して、近隣地区の長尾幼稚園への通園手段を確保する方策を検討し、車での通園のため長尾小学校の一部を駐車場として使用してもらうことと、バスによる通園を希望される方には定期代を一部補助することとして、制度を運用しています。この施策は、教育環境の大きな変化への対応策ということで、令和2年度から5年間の時限的な制度として実施しています。

令和3年度の状況は、駐車場利用は園児11名で車10台、バス利用が5名、計16名の園児が制度を活用して長尾幼稚園へ通園されました。

また、令和4年度の状況は、駐車場利用は園児14名で車13台、バス利用が3名、計17名の園児が制度を活用して長尾幼稚園へ通園しています。引き続き、令和7年3月末まで、継続して取り組んでいきます。

次に、中山五月台中学校の学校規模適正化への取り組みである山手台中学校区から中山五月台中学校に通学できる通学区域の弾力的運用についてですが、今年度は、7名が希望され、私立中学校へ進学された方を除く4名の方が中山五月台中学校に入学されました。昨年度は2名でした。

最後に、小学校の適正規模化に向けた取り組みである中山桜台小学校と中山五月台小学校の学校統合では、令和元年5月に具体的な検討を進めるため学校統合準備会と、その下部組織として6つの部会を設置し、地域や保護者の皆さまに参加いただき、検討を進めていただきました。6つの部会としましては、総務部会、教務部会、事務部会、地域・PTA部会、児童育成会部会、社会体育団体部会という部会です。学校統合準備会では、統合の進捗状況の確認や部会間調整、統合に関するお便りの発行などを担ってきました。各会議において、子どもを中心に考えながら検討を進めていただき、新型コロナウイルスの影響により統合の時期が一年延期されましたが、令和4年4月1日に統合校である中山台小学校を開校することが出来ました。閉校した両校では、3月に閉校記念式典を実施させていただき、育友会、PTAの方々には多大なるご協力をいただきました。中山桜台小学校は46年間、中山五月台小学校は43年間の歴史に幕を閉じました。

(座長)

ありがとうございます。それでは、皆さんから質問などはありますか。～質問等なし～では、次のテーマとして、中山台小学校の開校について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

中山台小学校の開校について説明します。4月7日に開校式と始業式を、8日には入学式を行い、子どもたちは新しい学校生活をスタートさせました。資料としてお渡ししている学校要覧に沿って説明します。

まず、新しい校章ですが、地域にゆかりのある方として、中山五月台中学校で美術の先生として勤務されたこともある中先生に制作していただきました。制作いただいた3つの案の中から、児童のアンケートにより決定しました。

新しい校歌は、地域にゆかりのある方として、作詞は中山五月台中学校で国語の先生として勤務された西澤先生、作曲は中山五月台中学校の吹奏楽部の顧問である渡邊先生にお願いしました。

次に、学校教育目標やめざす子ども像などについてですが、昨年度、中山桜台小学校の学校長、中山五月台小学校の学校長が、統合にあたり、各校の良さや課題などを踏まえて検討されました。統合校で、児童一人ひとりが思いやりを持って、自分も人も大切にしながら学校生活を送れるように、また、失敗を乗り越えられる強さやしなやかさを身に付け、諦めずに挑戦していけるようにとの思いを込められたものになっています。

次に学級数は、学年ごとに3クラス、全児童数は、5月1日時点で544人となっています。本市が定める適正な学校規模の範囲の中で中山台小学校の初年度をスタートしています。

次に、教職員についてですが、統合校の初年度であることから、兵庫県に要望し統合加配として3名の先生が増となりました。また、統合に際して、児童が不安に思わないよう、学校に元気に通うことができるよう、先生方も職員会議などで児童の情報を共有するなど、日々配慮しながら学校運営を行っています。

最後のページには、学校の沿革や教室配置図が掲載されています。また、学校のホームページで、児童の様子を掲載していますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

ここからは、学校の児童の様子ということで、学校長にお話をいただきたいと思います。

(委員)

それでは、前のテレビ画面に映した学校ホームページを使って児童の様子についてお話しします。

～ 学校ホームページをもとに児童の様子を説明 ～

見ていただきましたように、子どもたちは色々なことを学び、あっという間に1学期を終えようとしています。コロナの影響により制限はありますが、みんなが中山台小学校の1期生だということ、学校の新しい伝統をつくっていくのは私たちみんななんだよということを語りかけながら、子どもたちが学校に誇りを持つことができるように統合校の1学期

を過ごしてきました。これまで、保護者や地域の皆さまに本当に支えていただきながらここまで来ることができたと思っています。

(座長)

今のお話について、ご質問や感想などはありますか。

(委員)

中山台小学校のホームページですが、検索数が少なくて検索してもなかなか出てきません。宝塚市の小学校一覧から中山台小学校のホームページをご覧いただきたいと思います。みなさまがもっと、アクセスしていただければ、検索して出てくるようになるかと思うので、ご協力お願いいたします。

(委員)

児童たちの校歌への反応はいかがですか。もう覚えていますか。

(委員)

子どもたちは校歌が大好きです。学校ホームページから校歌も聞けます。4月に各学年が授業で校歌の練習をして覚えていました。

(座長)

他にご質問などはありますか。なければ次に移りたいと思います。

次の議題、今後の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

学校統合準備会ではこれまで令和4年4月1日の統合に向けて様々な準備を重ねてきました。統合に向けては6つの専門部会を設置し、それぞれの所管する事項について協議を行ってきました。今年の3月に開催の学校統合準備会では、準備会の位置づけについては本日開催の検討委員会で議論するとなりました。この学校統合準備会と各専門部会について、今後も継続して設置するのかどうかについてお諮りしたいと思います。

まず、総務部会については校歌、校章、閉校と開校記念式典などを所管していますが、残された内容としては開校記念式典です。この式典については総務部会のメンバーを中心とした実行委員会を組織しています。秋ごろに地域や保護者、関係者の皆さまに中山台小学校をお披露目する会を実施するための準備を行ってまいります。こちらについては実行委員会が組織されており、日程や内容について検討することとなっていることから、事務局としては、総務部会は役目を終えたと考えています。

次に、教務部会では両校の交流事業や中山台小学校の教育目標などについて所管しています。また、事務部会については学校の予算や学校図書、備品の整理などについて所管しています。この2つの部会については、中山台小学校が4月からスタートしており、学校のカリキュラム等も整理されていることから、役目を終えたと考えています。

次に、地域・PTA部会です。地域・PTA部会では通学路やPTAの組織、地域による学校支援に関することを所管していますが、通学路の安全対策については拡大安全対策委員会が組織されており、補導委員、PTA、学校長が参加しています。夏には合同点検も予定

されており、課題などはそこで議論されるべきだと考えています。PTAについては中山台小学校のPTAが組織されていますので、そちらにお返しするというを考えています。

次に、児童育成会部会です。この部会では児童育成会の組織運営に関することを所管していますが、新しい育成会のプレハブも建設され、新しい中山台小学校の育成会が組織されていることから、こちらも役目を終えたと認識しています。

次に、社会体育団体部会では社会体育団体、スポーツクラブ21の組織運営に関することを所管していますが、スポーツクラブ21は中山桜台が解散し、中山五月台が中山台小学校区の児童や住民を対象に事業を継続されています。子どもたちの教育環境を議論する準備会における部会としては役割を終えたと考えています。

以上、6つの部会についてはそれぞれ議論する場が設置されており、2重の組織、2重で検討するというにならないようにする必要があると考えています。そのため、部会としてはその役割を終え、その部会を統括する学校統合準備会についても部会の進捗管理や部会間の調整の役割を終えたことから、廃止してはどうかと考えますがいかがでしょうか。

(座長)

今のご提案について、皆さんからご意見などはありますか。

(委員)

前回の学校統合準備会で、フォロー体制が必要では無いかという意見がありました。その点について、事務局はどのようにお考えでしょうか。統合後は放りっぱなしというのは良くないと思います。フォローが必要だから、部会をどれだけ残そうかという話を前回の準備会ではしたと思います。内容的には、確かに終わっていることも多々あって、準備会で整理が必要だと、ただ、そうなるとフォローはどうするのか、どこで話し合うのか、どこに話をすれば良いのかということがわかりません。例えば、PTAであればどこに話をすれば良いのかはわかりますが、統合してどうだったかという全体的な話はどこですれば良いのかということになります。そのため、部会をどれだけ残すのか、準備会を残すのかを話し合わないといけないということでした。

(委員)

前回の準備会の会議時は会長をやっていました。皆さんの意見を聞いて、6つの専門部会の内、総務部会、地域・PTA部会、社会体育団体部会は継続してフォローが必要ではないかということで会議を終えました。学事課からの説明のとおり、基本的に開校記念式典の実施については実行委員会で、地域・PTA部会については通学路を含めて途中にはなっているので、反省点等を含めて実行しないといけない項目があれば継続してやらないといけないという話でした。ところが学事課から説明があった通り、地域・PTA部会の通学路については拡大安全対策委員会があるとのことでした。

(委員)

PTAに関しては良いです。学校全体のフォロー体制についてです。それぞれの部会の仕事内容は整理されて、終わりで良いと思います。ただ、放り出されてしまったように思い

ます。中山五月台小学校からすれば、子ども達は馴染んできているけれど、正直くすびっています。

(委員)

準備会というのは、統合までの話と統合後の数か月間の様子を見ましょうというイメージでいました。学校統合後の数年間のスパンで物事を考えるのであれば、検討委員会の次の議題の中には小中一貫教育の取り組みが入ってきますけれど、小中一貫の中にも小学校の現状が中学校へ引き継がれるという観点からすれば、現在の小学校の問題を協議する場になると思います。準備会という区分けされたものではなく、より広い視野で見れる検討委員会の議題に挙げて頂けたらと思います。

(委員)

検討委員会はそんなに多く開催されないし、実際に学校へ来てどれだけの方が子ども達の様子を見たり先生方がどれだけ大変な思いをされてきたかという様子を見たことがある方はいますか。私たちPTAはずっと見てきましたし、統合にもずっと関わってきました。

(委員)

12月の検討委員会でもフォロー体制は必要という話は出ていたと思いますが、先ほど説明があったように、検討委員会や準備会の目的から言えば統合に限れば、統合したことで、統合以外の問題も出たと思いますが、そういった問題は事務局からの説明の通り、受け皿があります。その中で準備会で話し合うべきことがあるのか。例えば、通学路の話が出ました。課題が残っていることは分かりますが、拡大安全対策委員会があるので、検討委員会や準備会で論議するより、そっちで論議する方が警察も入って通学路の確認をしているので良いと思います。解決する窓口についてまち全体のことであれば、中山台コミュニティがその役割を担っています。

PTA のことであれば、PTA が課題を整理されると思います。準備会としての基本的な役目は終わったので、受け皿がはっきりしないのであれば、検討委員会で論議すれば良いと思います。フォローはそういう形を取れば良いと思います。

検討委員会の回数が少ないのであれば、検討委員会の開催の日程の問題ではなくて、課題をどう解決するか仕組みを考えていけば良いと思います。

長尾幼稚園の通園手段についても仕組みを作り進行中ですよね。これも問題が起きた時の受け皿として検討委員会があるということで大丈夫だと思います。最終的なテーマである教育環境適正化ということであれば、検討委員会で行うということで良いと思います。

学校運営のことであれば、学校の先生たちと学校の仕組みの中で検討すべき課題です。それに意見があれば、PTA の立場で意見を言ったりすることや住民としてこれで良いのかという意見もあると思います。心配すべき事項があれば取り上げていけば良いと思います。

(座長)

委員はどのようなイメージをされていますか。

(委員)

会議体で整理をして必要なければ、それで良いです。6つの部会がいないというのであれば、それで良いです。PTAだけの話ではなく、統合の検討を進める中でこれで良いのか、統合して上手くいくのかと思っていました。やったことがないことだったので、やってみてどうだったのかなと振り返ると、思った以上に大変だったので、こういう話をしていけないといけなと感じました。先生方の様子を見たり、お話しを聞いたり、PTAだからこそ身近にいて話を聞く機会が多いので、その大変さが分かりますし、そんな思いをしてやったださっていたんだという話を聞く機会が多いです。そういうことこそ話しておかないといけなかったと思いました。それが検討委員会や準備会で話し合えたかというところ、不十分だと思いました。だから、部会を残してやって欲しいと言っているわけではなく、そういった課題こそ話し合うべきだし、反省点も出せた方が良くと思います。そういった話をどこでするかになります。その話を検討委員会でやっていただけるなら、それで良いですが、検討委員会は年に1回や2回しか開かれないような会で、この地区の環境教育の全体を話し合いますと言っているわりには、話し合いはしていますが、深い話し合いをしているわけでもありません。ではどこでするんですか。学校のことなので学校でやれば良い。PTAはPTAの組織があるからという問題ではありません。PTAで出来ることはPTAでやります。

(座長)

日常的な進捗管理等をやらなければいけないけれど、そういったフォロー体制をしっかりして、もう少し頻度良くやろうということですかね。

(委員)

そういったことは可能ですか。実際、そういう課題があるのにそれをどこで解決したら良いのかと思います。その6つの部会が整理していらぬのであれば良いです。それをどこでしたら良いんだろうと思います。

(事務局)

中山台地区教育環境適正化検討委員会がスタートして、学校統合に関しては細かい専門的な打ち合わせもあり、全体ですると相当数の会議を開いていけないことから分業するために部会を作ってきました。6つの部会を作った目的というのは、宝塚市で初めての統合なので、新たに作る必要がありましたが、元々あるものや新たに一つになったものについては対応する組織が既にあります。

統合して2つを1つにする作業は終わりましたので、1つに対応していくいろんな組織があります。先ほどの説明にあったように、通学路の安全であれば、拡大安全対策委員会があるので、そこが専門的にやっています。それともう一つのPTA部会を存続させた場合、どちらの意見を採用するのかという調整も必要になってきます。それであれば、本来ある組織に委ねていこうということです。統合が終わって、1つの学校になったので、本来の役割に戻していきましょう。それと少し混乱していた地域のことと統合のことも入り混じ

っていたので、地域のことはコミュニティに戻していきましょうということで、これからは整理が必要になるというのが今の提案でした。委員の言うように、全体的に学校運営の中で無理やりにやってきた歪みが出てきているかもしれないというのであれば、その検証についてはこの検討委員会で共有していった方が良いと思いますので、部会単位でするよりもこの場の方が良いと思います。

また、会議の開催頻度については、この2年から3年は年に1回や2回程度でしたが、それは、各専門部会で議論していこうということでした。各専門部会の議論に検討委員会は口出しをしないで、専門部会や準備会に任せようということによって一定の距離を取るためにあえて会合を開催しませんでした。ただ、その専門部会が無いということで、全体の運営の中で歪みが出ているのであれば、この検討委員会を開いて議論いただけたらと思います。

検討委員会は過去には30人を超える大所帯でしたが、今は小規模になっていますので、随時お集まりいただけるなら、この中で議論した方が良いと思います。皆さんどうでしょうか。

(座長)

頻度の話になりますが、半年に1回程度の開催であればそのようなことはできないですか。

(委員)

その話を聞いて皆さんはわかりますか。実際、現場でやったださっている先生方や近しいところで話を聞いて、私たちはそう感じるし、それこそ話をしないとまずいでしょうと思いましたが、そういう風に思うからこそ意見を言いますが、実際に話をすることで分かる方はどれくらいいるのかなと思いました。会のあり方はどうだろうという疑問です。

(委員)

PTA だからこそ分かることがあると思います。我々はPTAではないので、そちらから話を聞くことでしか情報を得ることが出来ませんし、実際、学校応援団で動いてくださっている方とか、その議題に応じて、その時に話をしてくださる方をお呼びして実情をお話いただくような運営の仕方もあると思います。何もこのメンバーでないといけないというわけではなく、議題に応じて新しい説明をしてくださる方をお招きしてというやり方をすれば、事情が分からない方でも理解しやすい運営になるかなと思います。この会議は検討委員会で決まったメンバーですが、絶対にそれでないとその人以外は入れませんというわけではないと思います。最初の検討委員会の時もオブザーバーの参加があるかないかという事も決めましたが、例えば参加の仕方でも聞きたいという方はオブザーバー参加が良いのかとか、その時に必要な情報をくださる方をお招きしてというやり方などを具体的にスタートの時点で決めておいた方が良いのかなと思いました。我々が知らない実情をお話ししてくださる方がいた方が理解しやすいと思います。

(委員)

今までの総括ということで振り返る必要はあると思います。私が中山桜台小学校に来るまでに学校統合は決まっていた。急に進み始めたのは私が着任してからになりますが、その時点で教員は具体的なことは何も知らない状態でした。統合は決まっていたのに、みんなの理解が無く、本当に統合されるのかというところからのスタートでした。今後、統合をされる際にそういったところの反省や教育委員会と現場の温度差、地域の思い、苦勞等について、少しでも次の取り組みの際に学校や地域、PTAの負担を軽減してあげることができればと思います。

もっとスムーズに進んだはずで、どうしてそこまで準備が出来ていなかったんだろうということもあったので、その反省を活かして、次は統合でこんなにしんどく無いように取り組んでいただけたら良いのではないかと思います。

(委員)

今後、小中一貫という話も出てきているわけですが、現状で小中一貫教育は学校に関わっているものとして考えられません。先生方も一生懸命してくださっていて、まだまだ落ち着かない状況で全てが新学校の体制を取ってくださっているので、決まっていないことがたくさんあります。一年通してやってみないといけない状況の中で次の小中一貫は考えられないです。だけど、行く先にそれがあるならば、また同じことを繰り返すのかと勝手に思いますし、こんなこと二度と繰り返したくないと、やったものとしては思っています。次の時には反省を活かして、こうすれば良かったとできた方が参加される皆さんも良いと思うんですけど、だからこそ次に活かせるように、今の現状も分かっていたいただきたいのも含めて、そういう話し合いが今後、必要になると思います。

(委員)

別の課題になりますが、準備会や部会の解散についてはそれで良いと思いますが、成果を確認したいと思います。元々、統合の問題もきっかけでしたが、教育環境の適正化については市、教育委員会が考えて住民に提案するというのを辞めましたよね。統合は初めてでしたが、住民を主体にして検討委員会を作りそこで論議して欲しいということで、教育委員会のスタンスとしては資料を提供しますが結論は住民たちで決めてくださいというのがスタートで統合についてもその中でスタートしたので、本来であれば、総務部会や教務部会というのは他市にはありません。それは教育委員会の中の当然の仕事で住民に相談する事はないからです。住民に相談するというよりも学校の先生が決める。それは部会を作って先生たちが論議してカリキュラムをどうするかという話を住民の団体である準備会や検討委員会が判子をするということです。その中の部会の集まりに先生たちの集まりがあります。先生たちと住民と相談するスタンスは無かったと思います。

それがあったということは、住民も先生たちと一緒に任せしますので、主体的にやって欲しいということだと思います。全体として、住民に投げかけられて結論を出すということについては成果があったと思います。同時にもう一つの小学校区でも統合の話があったけれど、3回か4回会議をされてフリーズされました。他市を見ても市が計画してこれ

でどうでしょうかとすると頓挫しています。そういう意味では住民に論議を任せるというやり方は先生も住民の会議の中で準備を進めることは困難を乗り越えられる仕組みだったと思います。それは一言でいえば協働という話で、今後、宝塚市でも統合が進んでいかざるを得ない状況なので、この成果を他の統合を進めていく中で活かして欲しいです。

(座長)

フォローすることは重要で、次への教訓を導き出すことが重要だと思います。その中で小中一貫という流れですよね。それとは一緒になるかは別として課題があります。この準備会というのは解散しようということで、新しい仕組みを考えていますよね。では、検討委員会でその話をするのは無理があるのかどうか。新しい会議体で話し合う必要があるのであれば、それを設けたら良いと思います。それは具体的な話が出てこないことには設けて良いかが分かりません。具体的な話が出てきて、それが非常に重要なことで継続的に話し合わないといけないということであれば会議体を設けたら良いと思います。それは今日の検討委員会では出来ない話なので、次の検討委員会で話して進めていかないとはいけません。

(委員)

中心になるのは学校になります。いろんな課題が上がってきていると思うし、フィードバックをしないと、こういう事が駄目だったというのを話し合わないといけないと思いますので、先生を中心にこういう事が必要ではないかという提案を事務局にさせていただいてよろしいでしょうか。

(委員)

先ほど事務局から提案があったように、開校して準備をしたことに対しては課題が終わったから、それを元々の課題があったところに戻しましょうということですよ。学校のことは学校に戻しましょう。戻した中でさらに課題が出てきて、検討委員会でも必要になれば、論議したら良いと思います。そのためには課題に応じて新しい会議体を作らないといけないのであれば、検討委員会のテーマにあっていれば、その中で新しい会議体を作るなり、会議体を作らなくても論議をまとめられるなら、そこでやったら良いと思います。

(委員)

そもそも新学校がスタートして、課題が見えてきているので、ここで意見を述べさせていただきます。3月から会議を開いていないので、既にそれぞれの組織に戻っている状況です。そこで、それぞれの組織で進めていて、課題が出てきているというお話をしています。もっとこの会を早くに開いていただければ、そういう話もっと早くに出来たと思います。

(委員)

問題が出てきていて、検討委員会の中で新しい仕組みが必要であれば具体的なテーマについてどうするかという論議をすれば良いと思います。その流れで良いと思います。

(委員)

ここでフレキシブルに必要な人材を呼んでいただいて話をしてもらうのは賛成です。そうしないと分からないと思いますし、実際に会議が出来ないと思いますのでそれはしていただきたいと思います。それとは別に今回の課題のフィードバックや反省点をどうしていくかということに関してはここの場所でやっていくのが一番良いのか、それともわざわざ別の会議体を持ってやる方が良いのかというのを学校と相談させていただいた方が良いのではないかと思います。一度持ち帰らせていただいて、先生たちと話をさせてもらって良いでしょうか。

(委員)

統合に向けては温度差があったり、まとめるのが大変だったというのは会議を進める途中で感じたことではあります。ただ、時間が過ぎていき、コロナがあり物事が停滞する中でいろんな問題が起こったと思いますけれど、その振り返りが出来ていないというのは感じました。検討委員会とは別に宝塚市で次の統合を考える時には、注意点や抑えておいた方が良いポイントなどについて、話し合いや検証が必要なのかなと思います。

それはこことは別に過去に関わった方々の各部長さんが集まってとかでも良いので、そういうのはあっても良いのかなと思いますが、それはあくまでも検討委員会とは別になります。

(委員)

それは別の会を作ってそれをここで報告していただくということですかね。

(委員)

学校は学校でPTAはPTAで苦勞があったと思います。今後、その苦勞を減らしていくためのまとめが必要になると思います。

ここは2つの小学校の統合でも大変だったので、3つや4つの地域が集まっての統合はより一層大変だと思います。そういうところの参考にさせていただけるのであれば、振り返りは必要になってくると思います。前向きな振り返りをしたいと思います。

(座長)

検証とフォローは少し違いますよね。日常的な事をフォローするのも含まれていますか。

(委員)

そういう意味ではないですね。

(委員)

日常的なフォローが必要だからそのフォローに関しては誰かフレキシブルに必要な人材でということ。

(座長)

今、言っているのは違う形での検討をやってはどうかということですよ。

他にご意見はありませんか。

いずれにしても今日の会議で結論を出すのではなくて、早めに次回の会議を開催して、フォローをどうするのかという話と学校から課題を出してもらうということをテーマにし

て、次の仕組みや体制を検討してはどうでしょうか。

(委員)

実際に通われている児童の保護者に聞くのが良いと思います。例えば、中山五月台小学校から通っていてどうだったのかという意見をざっくばらんに出せる場も欲しくて、この会議では無いですが、実際はどうだったのか、どうやれば良かったのか等の反省を検証会で話して次に繋げていったら良いと思います。

(委員)

それは検証会の方でやっていただいて、現状、通学するにあたって、困っていることがあり、拡大安全対策委員会で解決できなくてということであれば、ここに話を持ってくるのかなと思います。まずはそれぞれの専門のところで解決できる問題なのかどうか、できないところはどう取り組んでいけば良いのかをこの問題に上げてもらうというところでは、フレキシブルに問題を掲げているところに来てもらって説明をしてもらう。その流れで良いかどうかを決めておけば、早々に次の会議ではそういう体制が取れるのかなと思います。

(委員)

統合を振り返るのは必要だと思います。後は課題になることはそれぞれが解決し、今後の地域の教育環境に向けての課題があれば、この場に出していくことになるのかなと思います。

(座長)

今の全体の話を受けて事務局はどうでしょうか。

(事務局)

学校運営で大変な事があれば、本来は教育委員会の中で学校教育部が様々な相談を受けたり、フォローしていく部署です。人事的な問題であれば、管理部の中に職員課があります。PTAであれば、社会教育課という担当部署があります。通学となれば、拡大安全対策委員会があります。そこで上手く対応できない時にはこの連合体で担当する部署や組織に対して物を言っていけば良いと思います。4月以降であればそんな運用の仕方が良いと思います。そういう問題が生じた場合にはすぐに集まり、対応できればフォロー体制が強固になっていくと思います。

一方では統合に向けた活動の中で苦労した事は次回に活かしていきたいという話がありました。これは教育委員会の中で6つの部門の担当部署から課題抽出させてもらって、次回の会で報告させてもらおうと思います。さらに専門的に意見をまとめた方が良いというのであれば、何かの組織を立ち上げるということを提案させていただければと思います。

次回ですが、夏休み中は保護者の方が出てきにくいというのがありますから、9月になってしまうかもしれませんが、もし、時間帯や曜日によっては夏休み中でも良いということであれば、8月にでも開催することが出来ますので、すぐに日程調整とやるべき事を進めていきたいと思っています。

(座長)

それぞれの部署で課題や提案事項があると思います。そこは整理してもらってということによろしいですね。そうすると次回の会議はいつ開催するのかということになりますが、皆さんは8月でもよろしいでしょうか。

(委員)

秋口には開校記念式典もしないといけません。これはまだ白紙ですから実行委員会のメンバーは大変です。それを頭に入れながらスケジュールを組まないといけません。

(事務局)

開校記念式典は秋ごろの開催を考えています。そろそろ日程を固めていく必要があります。中身について具体的に検討するのは実行委員会になりますが、検討委員会の皆さんにお聞きしたいのは11月に実施するのであれば、平日なのか、土曜日や日曜日の方が良いのかを教えてくださいたいと思います。学校では土曜日であっても行事の関係では可能ということで聞いています。

(座長)

実行委員会はメンバーが決まっていますか。

(事務局)

決まっています。

(座長)

実行委員会の1回目はいつされるんですか。

(事務局)

その日程は決まっていますが、近々、開催して内容を決めていく必要があると思います。

(座長)

その会議は検討委員会とは別にされるわけですよね。

(事務局)

そうです。

(委員)

総務部会で話した結果、実行委員会を作ってやっていこうということになり、日程的な問題からすれば、学校が主体的にやるのではなく、地域が主体になってやっていきます。

秋になれば学校の行事もあり、コロナの状況にもよりますが、学校の日程に合わせていく必要があります。

(座長)

日程については今日決められますか。

(事務局)

土曜日や日曜日に実施か、平日の学校行事に合わせて行えば良いのかは総務部会でも議論されましたが、決めづらいところでした。ここで参考になることがあれば、実行委員会

でこのような意見が出ましたと報告させていただきます。

(委員)

日程は平日が良いです。

(事務局)

平日を想定していたのは学校行事でオープンスクールが11月にあったりするので、そうした時に合わせて開催すれば、多くの人に来てもらえるのではないかとということで、平日のプランとして想定していました。

(委員)

オープンスクールとフェスティバルについては、昨年度の夏時点で11月18日で計画はしていましたが、フェスティバルのあり方も新しい学校ですので考えないといけません。従来はお店を異学年交流で作って皆さんに来てもらうというのをやっていたのですが、それは出来ないと思います。

オープンスクールは案内をしているので、休みを取られている方もいますので、そこをどうしたいと思いますが、現在のところ、オープンスクールは全員が一斉に来られるのではなくて、2時間や3時間で分割していくような話になると思います。

(座長)

日程調整をどうするかはPTA会長、学校長と事務局で調整した後ほど行ってもらおうということでしょうか。

(委員)

日程だけではなくて、何をするかによって1日必要なのか、何時間かで良いのか、子どもを巻き込むのか等を実行委員会で決めないといけません。

(副座長)

開校記念式典は誰に対してするのかなと思いました。私たちは平日でも良いですけど、学校に通っている子どもの親、親戚とかを対象にした開校記念式典であれば、そっちでやってという感じですし、地域に披露するというのであれば、コロナもあって難しいと思いますが、地域の皆さんが集まりそうな日を2、3日空けておいて、呼びかけて地域の人に来てもらうとかを考えた方が良いと思います。目的というか、誰を対象にするのかをきめなければいけないと思います。

(委員)

地域の方に披露ということであれば、ものすごく日数がかかるとは思いますが、学校内の関係者だけであれば、1日で終わると思います。

(委員)

開校記念式典をするにあたって、市の予算がついており、実行委員会でお話ししてくださいということでした。

(委員)

予算をつけていただくのは良いですが、どこを対象にするかです。

(委員)

早く実行委員会をした方が良いと言ってきました。

(事務局)

今までの議論の中では閉校記念式典はそれぞれの学校の範囲でやりましょう。地域の方は学校と関係のある方しかお声掛けしていませんでした。開校記念式典は閉校記念式典よりも範囲は広がります。ただ、何をするかというのが具体的に決まっていますので、そこから議論していきます。日程については秋を予定しています。

(委員)

開校式は学校の行事として、4月に実施しました。

(委員)

開校記念式典の話は実行委員会があるのであれば、そこで決めてもらえば良いと思います。私たちが口出しすることでは無いと思います。今日は授業参観も見たいので、以上のことは議論する必要は無いと思います。

(座長)

実行委員会のメンバーも決まっているのであれば、会を開いて決めていただけたらと思います。

(委員)

早く開いてくださいと言っているのにずっと開いてくれないんです。

(委員)

そのフォロー体制や心配事が上がってきているということを言われてましたので、PTA会長の立場で地区委員の集まりや運営委員会等で話を聞いてもらっても良いと思います。

そうでないと、私たちは分かりません。実際、私たちの耳には入ってこないことですし、どういう問題があるのかも分かりません。

(委員)

今までの経緯もあるので。

(委員)

それは言っても仕方のないことです。

(委員)

違います。あるんです。それをご存知ではないので、そういう風に思われたのかなと思います。

(委員)

統合して中山台小学校が始まっているわけじゃないですか。以前は知りませんが、あなたが心配事があると仰ったのでそれについてはあなたがPTA会長なら、その立場で保護者の方に聞いてみて、取りまとめをされてはどうですか。これは問題と思うことがあれば、ここに持ってこられて良いと思います。そうでないと私たちは全然分かりません。まずはどういう事があるのかというのをまとめてはどうでしょうか。

(委員)

今までそういう話し合いをする場を作ってくださいという事も経緯としてあります。だけど、そういう事もしていただけなかったり、今までの流れの中で、ご存知無く、言っていることが分かっていただけないことはたくさんあると思うので、言葉足らずかもしれませんが、いろんなことがあったからこそ、次はそういう事をして欲しいというお願いや要望をここで上げさせてもらいました。

(委員)

具体的に上げてもらわないと分かりません。今までの事は私には分かりません。

(座長)

PTA 内で解決できる問題と PTA だけでは解決できない問題があると思います。ここで出すのは PTA で解決できない問題を検討委員会で検討すれば良いと思います。

開校記念式典は実行委員会でやってもらえば良いと思います。

また、次回の検討委員会で新たな体制をどうしていくかを決めていくことになりますが、会の開催は夏休みでもよろしいでしょうか。その際、解決できない問題を提起していただけたらと思います。

(委員)

事務局がいつも日程調整をしてくださいます。

(事務局)

次回の会議について日程調整をさせていただきます。

(座長)

それでよろしいでしょうか。

次の検討委員会で提案していただけたらと思います。

(事務局)

小中一貫教育の今後の取り組みについて説明させていただきます。

検討委員会では小中一貫校について、教育委員会での研究や成果を保護者や地域と共有し、今後、中山台区内での小中一貫校の導入について、着実に具体的な検討を進めるよう意見書を提出いただいています。教育委員会では本市の通学区域と教育環境について審議する教育環境審議会を合計 7 回開催し、先月の 20 日に答申書を受け取りました。

この答申では小学校と中学校で一貫して子どもを育てる意識を持ち、子どもの育ちや学びの連続性を重視して教育を展開する必要があるので、9 年間を見通したカリキュラムを編成して、それに基づいた小中一貫教育に取り組む必要があるという答申です。また、9 年間、小学校と中学校が連携しないといけませんので、そのためには現在の複雑な校区を整合する必要がある、全市的な小中一貫教育を推進する方針を策定する必要があるとされています。校区の整合と小中一貫教育に取り組むための基本方針を年内に策定し、パブリックコメントを経て年度内に完成させたいと考えています。また、審議会ではモデル事例として、中山台小学校と中山五月台中学校において、小中一貫校の導入に触れられています。

この地域における小中一貫教育の実施については、地域との協議も行いながら、またコミュニティスクールとも一体で検討していきたいと考えています。そういった事を教育委員会で進めていますので、よろしくお願いします。

(座長)

他に何かございますか。 ～質問等なし～

(事務局)

本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。これで第16回中山台地区教育環境検討委員会を終了いたします。

この後、学校の様子を見ていただこうと思います。皆さんの時間の都合もあると思いますので、希望される方のみご案内させていただきます。今日はありがとうございました。